

第 5 学年 総合的な学習の時間 学習指導案

本時の主張

これまでの調査活動から自分たちにできる活動を考えてアクションを起こしている。さらに、地域や行政にも働き掛ける活動にまで発展させたい。

そこで、

- ① 元ポートフォリオから重要なことを抽出し、再構築しやすいデジタルポートフォリオによって、振り返り活動を充実させる。
 - ② 地域や県・市当局と深いかかわりがある NPO 団体の代表を外部講師に招き「地域や県・市当局を巻き込んだ活動をすることで、より栗ノ木川の再生に近付く」という新たな視点もてるようにアドバイスしてもらう。
 - ③ 児童が困った時にいつでも質問できるように ST (ヘルプデスク) を活用する。ST は、答えではなく、児童の追求が高まるようなヒントを意図的に与える。
- これらにより、栗ノ木川再生に向けた新たな取組の見通しをもつことができるようになる。
*元ポートフォリオから重要なことを抽出し、再構築して凝縮ポートフォリオにする。

1 単元名

「私たちのくらしと栗ノ木川 ～栗ノ木川ルネッサンスプロジェクト 2009～」

2 目標

- (1) 身近な自然である栗ノ木川について、課題を発見し、その課題を追究することができる。
- (2) 活動報告を「ホームページ」にまとめ、地域に向けた情報発信をすることができる。
- (3) 友達や NPO や公民館、地域住民と連携して活動を推進することで、人とかかわる方法やよさを学び、栗ノ木川の再生に向けた行動を起こすことができる。

3 単元の評価規準

課題設定力	課題解決の能力	情報活用能力	かかわる力
栗ノ木川の現状から、課題を発見している。 栗ノ木川の調査や再生の方法を考えている。	課題解決に向けた取組をしている。	ホームページ作成ソフトを使ったポートフォリオにまとめている。 自分や自分たちの考えを発表している。	友達と課題解決に向けた話合いや協力をしている。 栗ノ木川に携わる人々の願いを知り、その人々と課題解決に向けた話合いや協力をしている。

4 単元と指導の構想

(1) 単元のとらえ方

昔から沼垂は栗ノ木川の恵みによって栄えた町である。栗ノ木川は沼垂に近郷から生活物資をもたらし、沼垂を交易の場とさせてきた。また、泳いだり、魚を取ったりして、人々に親しまれている川でもあった。

高度経済成長期になると栗ノ木川は埋め立てられてバイパスとなり、亀田郷の排水路としての新栗ノ木川だけが改修して残された。低水位の栗ノ木川は排水機場の強制排水によってのみ、流れができる川である。したがって、ヘドロがたまり水質が汚染され、一時は日本一汚れた川といわれたこともあった。そのため、児童にとって栗ノ木川は位置的には近いが、「汚い」、「危険」というイメージがあり、関心が薄く、精神的には遠い存在となっている。

しかし、地域で環境活動に取り組んでいる方と共に、当校の総合的な学習で栗ノ木川について調べたり、地域に働きかけたりしてきたここ数年の取組により、児童たちの要望に応えるように地域の祭り「踊れ！栗ノ木川桜祭り」が行われるようになったり、親水公園「水とみどりの広場」が、地域と学校の声に応じて作られたりして、少しずつ栗ノ木川は児童や地域に関心がもたれるようになってきた。栗ノ木川に携わる人々や、地域に暮らす人々の願いを知り、課題を解決していく一連の学習過程の中で、児童の栗ノ木川に対する願いが高まり、地域の一員として市民活動ができる姿を期待して、栗ノ木川ルネッサンスプロジェクト 2009 を計画した。

(2) 児童の実態と単元とのかかわり

児童の栗ノ木川に対する意識は、決して高いものではない。栗ノ木川は、学校のわきを流れている。児童にとって栗ノ木川は、登下校や生活の中で近くを通ることはあっても、興味のある存在とは言いがたい。存在することが当然で、注意深く見たり、かかわったりすることは少ないと言える。児童の意識としては、年に幾度となく行われる地域のお祭りやイベントの行われる場所や、先輩たちが学習を進めている場所だという意識程度である。

総合的な学習での学びは、3年生では、学校ビオトープで「生き物ランド博士になろう」をテーマに、生き物や植物、環境（水質、ヘドロ等）を追究してきた。そして、生き物ランドの環境をもっとよくしようとグループに分かれ、調査や活動を行った。単元終末には学習発表会を設け、保護者から賞賛の言葉を寄せられ、児童たちも満足していた。

4年生では、沼垂幼稚園と連携したサツマイモの栽培を中心とした活動により、年長組とのかかわりについて学習してきた。聞き取り調査などにより、かかわり方を学び、課題を解決していく学習過程が組まれた。

本単元は、3年生での問題解決的な学習を進める力、4年生でのかかわる力を活用して学習を進めていくこととする。また、それらをICT機器の活用によってデジタルポートフォリオにまとめたり凝縮したりすることで、情報活用能力を高めていく。

(3) 自己課題解決に向けた指導方策

① かかわることによる考えの高まり

ア かかわる学習について

問題解決的な学習場面において、個人の考えをもち、グループでの学習に参加させることが学習に参加させることが大切であると考え。なぜなら、友達などの他の人の考えに触れ、自分の考えに友達の考えを付け足したり、自分の考えを改めたり、新たな考えを構築したりすることができるからである。

次いで、地域人材や公民館やNPOを活用した学習を展開することで、子供たちだけでは

気付かない人々の考えに触れることができる。そして栗ノ木川の現状を理解し課題解決に向けた取組をし、自分の栗ノ木川に対する願いを高め、地域の一員として活動していく。

イ 個人の考えを生かす学習過程

活動前後には、個人の考えをまとめる活動をする。一人一人が多様な考えをもつ（拡散）、次にそれをもちより、グループや全体での発表や話し合いを行い、考えをまとめていく（収束）。これらを小さなスパンで繰り返していく。これらにより、児童が自分の考えを他と比較し、どのように高まっていったのかを実感しながら学習することができると考えている。また、考えを高める学習の仕方も学ぶことができる。

ウ 外部人材の活用

「通船川・栗ノ木川ルネッサンス」（NPO）、東地区公民館、市・県当局、スクールサポーター・地域住民（地域人材）など、外部とのかかわりをもたせることにより、児童がそれまで気付いていなかった考えに気付かせたり、正確な知識をもたせることができたり、栗ノ木川にかける熱い思いを感じたりすることができる。そして、気付いたり獲得したりしたことを生かして考えを高めていくことができる。

② ICT 活用による情報活用能力の育成

現代社会において欠くことのできない能力として、ICTを活用して生活したり学習したりしていくことがある。一連の学習過程（①課題の設定 ②情報の収集 ③整理・分析 ④まとめ・表現）の中にも、ICT活用を位置付けていくことが求められている。

ア デジタルポートフォリオとしての活用

学習する中で、気付いたこと、思ったこと、見たことを個人やグループのホームページにまとめ蓄積していくことで、デジタルポートフォリオとなるようにする。これは、児童の学習記録として、自らの学びを振り返り見直しをもち学習を進めていけるように活用していく。

イ 発信手段としての活用

ホームページを発信の手段とする。デジタルポートフォリオを凝縮してまとめ、ホームページ上で発表をする。発表の聞き手として、県・市当局や地域住民などに聞いてもらう。このような発表の経験を積み重ねることで、目的をもって情報を伝える力や分かりやすく伝える力が育つ。

また、保護者や地域の方からは、児童の学びをインターネット上からも見守ってもらいメール等にて評価をいただけるようにする。これにより、保護者、地域の方とインタラクティブな交流ができると考える。

③ 学習過程の工夫

本単元は、四つの小単元からなる単元学習として構想した。各単元中で、「課題を設定→解決方法を考える→解決に向けた取組みをする→まとめる→発表する→見直す→再び課題を設定する→」という一連の学習過程を位置付け、それを繰り返すことにより、児童の思考を連続させたり学び方を学んだりしやすいようにする。

5 単元の指導計画（全 95 時間 本時：3次 12/31）

1次 栗ノ木川探検 26 時間

時	○学習のねらい ・主な学習活動<外部人材>	評価の観点				
		設	解	情	か	具体的内容
6	栗ノ木川を探検しよう1 ○ 栗ノ木川の現状を知る。 ・栗ノ木川を探検して、気づきをメモし、レポートにまとめる。	○				栗ノ木川のよさを見付けることができる。(レポート)
8	栗ノ木川マップを作ろう。 ○ 栗ノ木川の様子をマップにまとめることができる。 ・栗ノ木川の様子について、グループで話合う。 ・グループでマップを作成する。				○	グループでの話合で、自分で見付けた様子を発表する。 (発言) 友達の考えを取り入れたマップを作る。(マップ)
3	栗ノ木川マップを発表しよう。 ○ 相手に伝えたいことがわかる発表ができる。				○	伝えたいことをアピールする発表をする。(発表)
4	栗ノ木川探検をしよう2 <NPO, 公民館, 国交省, 県> ○ 栗ノ木川の現状がわかる。 ・バスで栗ノ木川の上流や下流を見学する。 ・NPOや土地改良区から現状を聞き、レポートにまとめる。	○				栗ノ木川の問題がわかる。(レポート)
4	ホームページ作成 ○ これまでに見たこと, 知ったこと, 感じたことを個人のホームページにまとめることができる。 ○ 自分の問題とすることを考える。	○			○	ホームページを作成することができる。 自分の問題となることを決める。(デジタルポートフォリオ)
1	発表しよう ○ ホームページをグループ内で発表する。				○	自分の課題となることを中心に発表することができる。(発表)

2次 栗ノ木川ルネッサンス 29時間

時	○学習のねらい ・主な学習活動<外部人材>	評価の観点				
		設	解	情	か	具体的内容
1	どんな栗ノ木川になってほしいのか考えよう <NPO> ○ 現在と昔の栗ノ木川を比較することで、小単元の課題を設定する。 ・デジタルポートフォリオを元に現在の問題を共有し、昔と比較することで、課題を設定する。	○				現在の栗ノ木川の問題と、昔の栗ノ木川の様子を比較することで、小単元の課題を設定することができる。(発表, カード)

2	グループを作り、活動計画を立てよう ○ 調査する方法を考える。 ・ 課題ごとにグループを作り、課題を解決する方法を考える。	○		○	グループでの話合で、自分や、自分たちの調査する内容や方法を考える。(発言、ホームページ)
4	栗ノ木川を調査しよう1 <サポーター, NPO> ○ 栗ノ木川を調査し、課題についての理解を深める。 ・ グループごとに、調査活動を行う。		○		調査活動により、栗ノ木川の課題に対する理解は深まったか。(レポート)
4	グループホームページ作成 ○ 調査活動についてまとめる。 ・ 調査の活動報告を、ホームページにまとめる。			○	これまでの調査活動をホームページにまとめることができる。(ホームページ)
3	発表しよう<NPO, 県, 市, 地域住民> ○ これまでの調査内容を発表し、今後の活動について、アドバイスをもらう。 ・ ホームページを基に発表し、今後の活動についてアドバイスをもらう。			○ ○	これまでの調査活動を振り返った発表ができる。(発表) アドバイスをもらうことができた。(レポート)
2	活動を見直そう。<NPO> ○ 発表会でもらったアドバイスを元に、調査する方法を考える。 ・ グループの調査活動の内容や方法を見直す。	○		○	アドバイスを基に、自分たちの調査する内容や方法を考えることができる。(発言, 学習カード)
4	栗ノ木川を調査しよう2 <サポーター, NPO> ○ 栗ノ木川を調査し、課題についての理解を深める。 ・ グループごとに、調査活動を行う。		○		調査活動により、栗ノ木川の課題に対する理解は深まったか。(レポート)
4	グループホームページ作成 ○ 調査活動についてまとめる。 ・ 調査の活動報告をホームページにまとめる。			○	これまでの調査活動をホームページにまとめることができる。(ホームページ)
5	発信しよう。<NPO> ○ 外部から評価を得たり、他グループの課題に触れたりして、栗ノ木川の課題に対する理解を深める。 ・ ホームページを公開し、外部評価を受ける。 ・ 他グループのホームページを見て、栗ノ木川の課題を共有する。			○	・ 外部評価や、他グループのホームページを見て、栗ノ木川の課題に対する理解を深める。(レポート)

3次 栗ノ木川再生プロジェクト 31時間

時	○学習のねらい ・主な学習活動<外部人材>	評価の観点				
		設	解	情	か	具体的内容
2	プロジェクトチームで栗ノ木川再生のための活動計画を立てよう <NPO> ○ 活動する方法を考える。 ・ 課題ごとにグループを作り、課題を解決する方法を考える。	○				栗ノ木川の問題を受け、再生に向けた取組を考えることができる。(レポート)
4	栗ノ木川を再生しよう1 <サポーター, NPO> ○ 栗ノ木川の再生活動をする。 ・ グループごとに、再生活動を行う。		○			栗ノ木川再生に向けた各グループでの活動をすることができる。(レポート)
4	グループホームページ作成 ○ 再生活動についてまとめる。 ・ 再生活動の報告をホームページにまとめる。			○		これまでの再生活動をホームページにまとめることができる。(ホームページ)
3 (本時)	発表しよう<NPO> ○ これまでの再生活動を発表し、今後の活動について、アドバイスをもらい、見通しをもつ。 ・ Webサイトの情報掲示板を使い、活動について発表し、今後の活動についてアドバイスをもらう。	○		○		これまでの再生活動を中心に発表資料を作ることができる。(ホームページ, 発言) アドバイスから、今後の活動の見通しをもつことができる。(発表, 書き込み)
2	活動を見直そう。<NPO> ○ 発表会でもらったアドバイスを基に、調査する方法を考える。 ・ グループの調査活動の内容や方法を見直す。	○			○	アドバイスを基に、自分たちの調査する内容や方法を考えることができる。(発言, 学習カード)
4	栗ノ木川を再生しよう2 <サポーター, NPO> ○ 栗ノ木川の再生活動をすることができる。 ・ グループごとに、再生活動を行う。		○			栗ノ木川再生に向けた各グループでの活動をすることができる。(レポート)
4	グループホームページ作成 ○ 再生活動についてまとめる。 ・ 再生活動の報告をホームページにまとめる。			○		これまでの再生活動をホームページにまとめることができる。(ホームページ)
8	発信しよう。<NPO> ○ 外部から評価を得たり、他グループの再生活動に触れたりして、栗ノ木川の再生に対する理解を深める。			○		・外部評価や、他グループのホームページを見て、栗ノ木川の再生に対する理解を深める。(レポート)

	<ul style="list-style-type: none"> ・ ホームページを公開し外部評価を受ける。 ・ 他グループのホームページを見て、栗ノ木川の再生に対する理解を共有する。 				
--	--	--	--	--	--

4次 栗ノ木川桜祭り 9時間

時	○学習のねらい ・ 主な学習活動<外部人材>	評価の観点				
		設	解	情	か	具体的内容
2	栗ノ木川桜祭りの構想を立てよう ○ 栗ノ木川桜祭りで発表する計画を立てる。 ・ 再生プロジェクトを受け、地域住民に訴えることを考える。	○				栗ノ木川の再生プロジェクトを受け、桜祭りに向けた取組を考えることができる。(レポート)
5	発表の準備をしよう。 ○ 伝えたいことが伝わる発表に向けた準備ができる。		○			地域住民に訴える準備ができる。(活動の様子)
2	活動を振り返ろう ○ これまでの学習を振り返り、栗ノ木川に対する思いをまとめる。 ・ これまでの活動を振り返り、次年度の5年生や地域住民に向けてホームページにメッセージを書き込む。			○		これまでの再生活動を振り返った書き込みができる。(書き込み)

時間外 栗ノ木川桜祭り 次年度 4月

7 本時の計画

(1) 本時のねらい

これまでの活動や外部講師や教師からのアドバイスを基に、地域や県・市当局を巻き込んだ今後の活動についての見通しをもつことができる。

(2) 評価規準

- ① 凝縮デジタルポートフォリオを使い、これまでの再生活動を振り返った発表ができる。
(発表)
- ② 外部講師や教師のアドバイスから、地域や県・市当局を巻き込んだ活動についての見通しをもつことができる。
(発言・ワークシート)

(3) 指導の構想

児童たちはこれまで、調査活動や再生活動により自分たちにできる栗ノ木川の再生活動を実行してきた。しかし、その再生活動は、看板を作成したり自分たちの夢の栗ノ木川の模型を作ったりするなどの自分本位の活動になりがちであった。

そこで、以下の三つの働き掛けを行う。

- ① ホームページ形式で蓄えてきた凝縮ポートフォリオを活用し、これまでの活動を振り返らせる。

② 外部講師による「地域や県・市当局を巻き込む」という新たな視点を与える。

③ T Tを用いることで、より細かな具体的なアドバイスができるようにする。

これらの働き掛けにより、再生を訴えかけるべき相手意識を強くもたせ、地域や県・市当局を巻き込んだ具体的な再生活動にしていくために自分たちの進めてきた再生活動を今後どのように進めていけばよいのかについて見通しをもたせるという時間にしていく。

① 電子黒板を使った凝縮ポートフォリオの発表により、これまでの活動を振り返らせる。

これまでの活動をホームページ形式でデジタルポートフォリオにまとめてきた。これをさらに、外部講師への発表に向けて再生活動を中心としてまとめることで、凝縮デジタルポートフォリオにし、自分たちの再生活動を振り返らせる。その結果、児童は自分たちのこれまでの再生活動を今後いかに変えていくか考えることができる。デジタルポートフォリオは紙中心のものよりも再構成等がしやすく、効率的に振り返りの学習ができる。

これは、これまでの調査活動や再生活動により蓄えられた資料を効果的に活用し自分たちの考えにつなげて発信するという、情報活用能力の「情報の収集―加工―発信」の一連のプロセスのうち、「発信」の部分に当たる。一連のプロセスを、ICTの活用により便利に効果的に行うことができている児童たちに、今回は電子黒板を使い発表させることで、多くの人に簡単な操作で説明できるというICTの利便性にも気付かせていく。

② 外部講師による「地域や県・市当局を巻き込む」という新たな視点を与える。

これまで行ってきた再生活動をより効果的なものにするために、これまで数年間にわたり当校の学習に参加していただき、活動について熟知していらっしゃるNPO団体の代表を外部講師に招く。その方は地域や県・市当局と深いかかわりがあるので、的確なアドバイスをもらうことができると思う。

具体的には、「地域や県・市当局を巻き込んだ活動をすることで、より栗ノ木川の再生に近づく」という新たな視点をアドバイスしてもらおうと考えている。そのために、以下に示した内容について話をしていただく。

- 意欲を高めるために、これまでの活動を賞賛してもらう。
- 地域の祭りである「栗ノ木川桜祭り」の活用を提案してもらう。
- 県・市当局の担当者への訴えや活動を提案してもらう。

外部講師からアドバイスをしていただいた内容は、児童が活動の見通しをもつためのポイントとなるので教師が板書をして残しておく。

また、外部講師とは具体的な内容や時間等について、事前によく打ち合わせをしておく。

③ T Tを用いることで、より細かな具体的なアドバイスができるようにする。

外部講師のアドバイスを基にしてこれまでの自分たちの今後の再生活動を考える際に、より具体的にきめ細かなアドバイスができるように、T Tで授業を行う。MTは、全体を指導する。STは、グループで具体的な見通しをもつ際に、困った場合に自由に質問できるようにしておく。すぐに答えを教えるようなことせず、ヒントやアドバイスをするようにする。これを「ヘルプデスク」とした。

これら①から③の手立てを講じることにより、本単元の最終段階である自分たちの活動を地域全体の活動へと広げていく足掛かりとしていきたい。そして、自分たちの住む地域を見直し、将来に向けてよりよくしようとする人間に育ってほしいという教師の願いへと近づけたい。